

日本原子力学会 核燃料部会
令和3年度第一回運営小委員会議事録

日時 : 令和3年4月22日(木) 13:30~15:30 於 WEB会議(Webex)
出席者: 加藤部会長, 大江副部会長, 佐藤副部会長, 阿部委員, 宇田川委員, 宇埜委員, 大堀委員, 尾家委員, 川西委員, 黒崎委員, 澤委員, 篠原委員, 園田委員, 竹野委員, 片山様(谷口委員代理), 橋爪委員, 原田委員, 樋口委員, 松永委員, 松本委員, 柳沢委員, 渡部委員, 山内(記)

議事

1. 前回議事録等の確認(資料1)

山内から, 前回(令和二年度第3回)運営小委員会議事録, 及び第48回全体会議議事録を紹介した。また, 事前にメールにて確認済みである旨紹介し, 了承された。

2. 令和2年度収支実績と令和3年度予算案(資料2)

山内から, 令和2年度の収支実績および令和3年度予算について紹介した。夏期セミナーに関しては, 3部会で調整し, Webでの開催が決定しているが, 現地開催を参考に, 予算を計上している。なお, 繰越金取崩については, 予算計上していないため, 使用する際は, 学会事務局に確認が必要である。

繰越金については, 執行していない本部予算配分分を減額された形で再配分され, 繰越金は0円になるため, 実績が出次第, 確認する必要がある。

なお, 後日, 学会事務局の資料から, 2020年度の収入が支出に応じた額に修正され, 繰越金が0円になっていることを確認した。

3. 令和3年度核燃料部会業務分担について(資料3)

山内から, 今年度の業務分担および来年度の業務分担予定について, 紹介した。

ポジションステートメントWG委員は, 大江副部会長が担当することになったため, 資料3-2を修正することとした。

部会長選任ルールの変更については, 幅広い人材の活用を目的に, 産業界出身者も部会長候補になれるようにする方が良いとの意見もあり, 部会長, 副部会長, 庶務幹事で方向性をまとめ, 次回運営小委で紹介することとした。

4. 企画小委員会の概要について(資料4)

佐藤副部会長から, 4月12日に開催された企画小委員会の紹介があった。

核燃料企画小委員会のメンバー, 2021年秋の大会企画セッション及び2021年度3部会合同夏期セミナーの議論について, 紹介された。

5. 核燃料部会・部会賞（学会講演賞，奨励賞）について（資料5）

園田委員から，2021年春の年会学会講演賞の選考結果が報告され，以下の1名を選定することが承認された。また，部会賞選考小委の2021年度委員が紹介された。

- ・ 岡崎 陽香（福井大学）

園田委員から，今回の選考では問題にはならなかったが評価基準の明確が今後の課題となった。運営小委でも以下の意見があった。

- ・ 採点者間での点数にバラツキが大きい
- ・ 良ければ+2を付けている評価者もいるようであり，+1，-1の付け方が不明確

また，学会講演賞の応募者が少なかったことも課題であり，以下の様な意見もあり，引き続き，選考小委で検討することとなった。

- ・ 今後，35歳以下は自動エントリー
- ・ 35歳以下，自動エントリーとした場合，どのように対象者を選定するのか検討が必要であり，以下の様な案が出た。
 - 自動エントリーは，核燃料部会に限定
 - 部会賞の受賞者は核燃料部会に限るが，応募者は部会員以外でもOKとし，受賞対象となった場合に，部会員になる意思を確認し，部会員になることを条件に受賞とする。
- ・ 対象者が多くなりすぎると，評価者が聞きたいテーマを聞けない等，評価者の負担も大きくなるため，適切なエントリー数になることも重要
- ・ 学会講演賞の受賞は，受賞者の励みになるため，若手育成のため重要

なお，後日，学会事務局に確認したところ，個人情報利用申請書を提出すれば，年齢・連絡先等の情報提供は可能とのことであった。ただし，学会側でも若干手間がかかるため，明らかに35歳を超えている等のメンバーを削除する等，適切に人選をして欲しいとのことであった。

6. 2021年秋の大会での企画セッションについて(資料6)

樋口委員より，2021年秋の大会の企画セッションについて，検討状況が紹介された。具体的には，前回の討論版とし，核燃料の今後の展望に関することについて，企画セッションを行うこととした。

黒崎委員からは，春のテーマの反省として，以下の様な意見がだされた。

- ・ 春は，各燃料の紹介でセッションが終了してしまっただけのため，テーマを明確にし，討論を実施したい。
- ・ 前回の振り返りとして，各燃料の紹介は5分程度としたい。
- ・ 春は，照射試験を共通のテーマとしたが，各燃料の到達点が異なっているため，焦点が不明確になってしまった。ペレット，被覆管でも課題は

異なるため、広がりすぎないように、適切な共通テーマを決める必要がある。

秋の大会まで、まだ、時間があることから、当日までに、討論のやり方を決めて行くこととする。

まずは、国内企画担当（澤委員、樋口委員）が講演者等の調整を行い、5月14日までに企画セッション提案書を作成・提出することとした。

7. 令和3年度 3部会合同夏期セミナーの開催について（資料7）

渡部委員より、令和3年度の3部会合同夏期セミナーについて、進捗が紹介された。加藤部会長より、基調講演に関して、「核燃料部会の概要」より、ここ10年の状況を踏まえた核燃料部会に関するテーマの方が良いと思うため、別途、テーマについて、夏期セミナー担当に連絡することとなった。また、夏期セミナーの案内に関しては、4月末を目処に作成し、部会報 No.56 に載せることとした。

8. 核燃料部会報No.56について（資料8）

柳沢委員より、核燃料部会報 No.56 の進捗について紹介された。締め切りは、4月末としているが、5月14日まで待てるので、できるだけ早めに、入稿して欲しい旨依頼があった。

巻頭言に関しては、加藤部会長の挨拶を掲載することで調整済みであるが、ホームページにも同様の内容を掲載することとした。

9. 核燃料部会報No.57-1について（資料9）

竹野委員より、核燃料部会報 No.57-1 の進捗について紹介された。巻頭言、国際会議紹介、国際交流ニュース等、執筆者の提案が欲しい旨、依頼があった。今年度は、学会が秋、春と開催される予定であるため、夏版、冬版の2回発行することとした。

10. 2020年度核燃料部会活動報告について（資料10）

大江副部会長より、2020年度の活動報告書について、紹介された。なお、2020年度の半ばに委員を退任したメンバーも記載することとなった。

11. その他

(1) 日本原子力学会理事会と若手連絡会、学生連絡会の意見交換会報告（資料11）

宇埜委員より、本原子力学会理事会と若手連絡会、学生連絡会の意見交換会について、紹介された。

核燃料部会の学会講演賞の応募は少なかったが、ポスターセッションは、参加者が3倍となっていること、安全部会では独自に賞を出す取り組みをしていること等の紹介があった。

(2) プログラム編成委員について(資料 12)

大江副部長より、プログラム編成 WG メンバーについて、紹介された。

(3) 未来像 WG へのご協力の御礼

大江副部長より、未来像 WG に協力していただいたことに関して、口頭でお礼がなされた。

(4) 次回運営小委員会について

次回の運営小委員会は、令和 3 年 7 月 14 日 13 時 30 分から、開催することとした。

以 上